

令和5年度 市長と語る車座ミーティング（意見交換概要）

【開催日時】 令和5年10月2日（月）（午後3時00分～午後4時00分）

【開催場所】 東部人権啓発センター3階大会議室

【参加団体】 東御市男女共同参画推進委員会

【参加者数】 7名（市長、市職員除く。）

【懇談テーマ】 「市長が考える男女共同参画プラス」



※議事については、主な内容を抜粋して掲載しております。

個人のプライバシーに関する部分などについては、一部内容を割愛しております。また、意見交換の内容は開催日時点のものであり、現在の状況と異なる場合がありますことを、あらかじめご了承ください。

【概要】

（司会）

女性活躍について、上田市や佐久市で始めた女性のIT人材育成事業について市長の考えをお聞きします。

（市長）

国の政策として、社会に出た女性で理系やITをやってみたい人（リトライしたい）への援助制度ができました。しかし、国の補助があるから、その事業を行うという構図では無いと思っています。企業からのニーズ、住民からの要望があって、需要と供給が成り立つので、声が上がれば検討していくと思います。

(司会)

市長の優先順位が高いものはなんですか。

(市長)

保育士の登用だと考えています。

夢を実現されて保育士になったのに職場が無い、会計年度任用職員のみ採用という状況に大変申し訳なく思っています。また、保育士の産休・育休時の代替保育士の確保が難しいので、人材バンク等の整備が必要だと思います。

(司会)

政策や方針等の決定の場へ女性割合を増加させるために、クオータ制の導入や女性管理職についてお聞きします。

(委員)

女性市長が活躍している市などもあります。東御市での女性副市長の登用についてもお聞きしたいです。

(市長)

副市長については、適材適所で対応してまいります。

クオータ制の導入は、まず国から率先して初めて地方に下りるのが良い方法だと考えています。議員は選挙で決まるので、政党からの立候補者のうち30%を女性にするという公約を打ち立てていただければと思っています。

(委員)

地域役員の女性活躍についてどう考えていますか。

(市長)

家父長制が強く残り、世帯主がすべてを担う風習に対し、これを壊す切り口になるのがマイナンバーカードだと思います。補助金等の行政からの振り込みが世帯主ではなく個人に渡せるようになり、世帯単位から個へアプローチする可能性を秘めています。そういうことも含めて、世帯主が全て担うのではなく、地域の中で個々の役割に取り組むことを可能にしたいと思っています。

(委員)

市役所における管理職の女性割合と女性を増やす考えはありますか。

(市長)

正規職員の女性割合は約50%、係長の女性割合は46.2%とほぼ半々なのに対し、課長や部長となるとぐっと割合が低くなっています。問題なのは残業しなければ幹部になれない体制であって、これで良いのかと疑問に思います。誰もが定時に帰り、子育てや家庭の時間を持てる社会にしていけないといけないのだと思います。労働人口が減少するなか、みんなで働いて、誰もが自分の人生を大切にする働き方に変わっていけばと思います。

そのためにも、デジタル化やそれぞれの工夫で残業の少ない職場にしていきたいと思っています。

(委員)

クオータ制については私が所属する職場でも意見が分かれます。適材適所と思う人もいるし、地方だと人材不足が問題です。それでも目標を設定しているのであれば、組織の中でクオータ制を実施するのは有効だと思います。

(市長)

現在、管理職に該当する年齢の女性職員が入庁した当時は、男性社会で猛烈に自己を犠牲にして働くイメージがあったので、それならば出来ないと思っている人が多いと思います。今どういう働き方や社会にしていきたいのかを語られたらよいと思います。

(司会)

パートナーシップ届出制度が県や松本市等で始まりましたが東御市はどうでしょうか。また、災害時の避難所でジェンダーレストイレの設置は出来るのでしょうか。

(市長)

トランスジェンダーの方と話をして、外での入浴やトイレに関してそれぞれの悩みがあるのだと知りました。

避難所という命を繋ぐ場での優先順位があり、避難所を開設する期間にもよると思います。なるべくプライバシーを守りながら、まずは命を繋ぐことを優先したい。いろいろなシチュエーションの中、その場その場で知恵を出していきたいと考えています。